

国際交流サロン

3月の「世界の家族のごはん」はマリ共和国とグリーンランドです。さあ、世界のことを知って交流を始めましょう。

国名と都市	マリ共和国 モプティ州クアクロウ	グリーンランド ケープ・ホペ
家族構成	両親2組、乳児(男2) 幼児(男1)、子ども(男3) 子ども10代(男2女3)	両親、幼児(男1) 子ども(男2)
一週間の食費	約2,100円(約17,670フラン)	約2万3,000円(198,48デンマーク・クローネ)
好きな食べ物(特徴)	主食のバナナとヤムイモの粉で作った餅、魚とチキンのヤッサというマリネ、(燻製の魚と乾燥野菜)	ホッキョクグマの肉料理、イッカクの皮の煮込み、(アザラシのシチュー)

*乳児(2歳未満)、幼児(6歳未満)、子ども(13歳未満)、子ども10代、子ども20代で表記



エチオピア大使館公式訪問

4月の国際交流情報

4月29日(月・祝)

陶炎祭・笠間稲荷神社・つつじ祭り
ホームタウンガイド

時間：午前10時～午後4時

会場：陶炎祭会場・笠間稲荷神社

つつじ祭り期間中山頂にて、野点のガイド

☆4月の日本語教室の開講日

4月6日(土)・13日(土)・20日(土)

(友部公民館 午前10時～)

陶炎祭・笠間稲荷神社・つつじ祭りホームタウンガイドのご案内

笠間市国際交流協会では、4月29日から5月5日の陶炎祭期間中に、陶炎祭会場から笠間稲荷神社を周遊し、つつじ祭り会場までの案内サービス(ホームタウンガイド)を行います。県内外から笠間市に来られる外国人の方に地図の配布や、観光スポットへの道順をご案内します。

つつじ祭りの野点の会場では希望する外国人の方に無料の通訳サービスを行います。どうぞお役立てください。

問合せ：一般社団法人 笠間市国際交流協会 TEL090-2761-8711 (木村 美枝子)

農業

市長コラム



▲ たわわに実った稲

私は農家の長男として生まれました。父は専業農家だったので、私も小さい頃に田植えや、稲刈りを手伝った思い出があります。現在は農業をしていますが、農業は地域の地場産業であると常に思っています。その地場産業が成長していくことは、地域が元気になることにつながっていきます。

昨今、農業を取り巻く状況はTPPをはじめ、後継者不足、耕作放棄地など多くの課題を抱えています。ですが、その一方で農業を経営としてとらえ、事業として成功している農家や法人、組合等の方もたくさんおられます。農業も生産者の努力や創意工夫により成

長する産業であると思います。

農業に対する行政支援は、多くの制度や補助金があります。我が国においては、農業が基幹産業であり、地域においても重要な産業であるからです。しかし、農業は自然が相手です。気象条件に生産が左右されることは避けられないことですが、自然環境を維持し、我々の大切な食物を生産するという重要な役割を担っています。

この3年間、本市としては、農業振興を重点施策として推進してまいりました。特に市の重要な農産物である粟のPRや、市内の優れた農産品のブランド化推進については一定の成果も出てきたと思います。

しかし、課題も山積しています。今後、行政の支援対象は、専業農家、法人、組合等に重点を置き、的を絞った政策が必要と考えます。そして、更なる取り組みを実施するために、平成25年度には、国の「攻めの農業政策」に基づき、成長産業として発展できるように、市として、農業公社の立ち上げの検討を進めるほか、農商観連携や6次産業化等の推進による新たな農(脳)業の推進に取り組んでまいります。

笠間市長
山口伸樹